

総合拠点(1拠点)(SciREXセンター)

- ・「政策のための科学」に関する博士及び修士課程を設置し、専門的知識及び能力を習得するための総合的なカリキュラム等を設定
- ・全体の中で中心的な役割を果たし、各拠点の具体的な連携を行う拠点間共同プログラムに関する総合調整を実施

「政策研究大学院大学」

- ・社会的課題を的確に捉える能力、及び科学的アプローチを用いて科学技術イノベーション政策の企画・立案・実施・評価・改善を行う能力を有する人材を育成
- ・政策のための科学に関する修士課程及び博士課程を設置
- ・拠点間連携を主導するとともに、政策のための科学に関する学問領域の発展やコミュニティ形成を牽引

修士2名、博士15名

領域開拓拠点(4拠点)

- ・既存のプログラムとは独立した形で、「政策のための科学」に関する人材育成プログラムを開設

「東京大学」

- ・公共政策・工学の領域を軸として、政策形成や科学技術イノベーション政策研究のための人材を育成
- ・既存の大学院修士課程に部局横断型プログラムを設置

修士215名 博士29名

「一橋大学」

- ・経営学・経済学等の社会科学を基盤としつつ、自然科学や工学的知見も取り込んだ領域横断的なイノベーション研究を担う人材を育成
- ・博士課程レベルのプログラムを設置

博士12名、その他14名

「大阪大学・京都大学」

- ・科学技術の倫理的・法的・社会的問題(ELSI)研究を領域の軸とし、学問分野間及び学問と政策・社会の間をつなぐ人材を育成
- ・既設の修士課程にプログラムを設置、両大学が連携し、関西地域のニーズや特色を活かす教育研究の推進

大阪大学:修士28名、博士12名
京都大学:修士13名、博士1名

「九州大学」

- ・東アジアと地域イノベーションを領域の軸とし、専門領域と政策のための科学をつなぐ人材を育成
- ・大学院基幹教育科目としてプログラムを開講

修士17名
科目等履修生10名

SciREXサマーキャンプ2016実施報告

資料3-1(別紙2)

科学技術イノベーション政策
における「政策のための科学」
アドバイザー委員会
(第5回) H28. 12. 19

SciREXサマーキャンプ2016「科学技術イノベーション政策と震災復興」

本年度のサマーキャンプでは、科学の大目的である知識の創造、あるいは専門化による、視点、思考や実践の限定という無意識的な問題に対して、参加者の多様性を生かした、学生、教員、拠点間の有機的な関係性の構築を目的に、一見、全く関係ないと思われるような、科学技術イノベーション政策と震災復興というふたつのテーマを組み合わせたテーマ設定を行った。

キャンプは、おもに、講義および特別講演(1日目)、視察(2日目)、発表(3日目)で構成され、準備は幹事校である一橋大学の教職員だけでなく、各拠点の若手教員がメンターとして学生の事前課題、当日のサポートまでをおこなった。視察先として、松島町および仙台市の企業や大学等にご協力いただき、学生と教員、また、専門分野の垣根を超えたグループワークを実施することができた。また、2日目には、松島町長にサプライズゲストとして来場していただいた。

- 実施日 2016年9月15日から17日まで
- 場所場所 松島 一の坊 (宮城県松島町)
- 参加者 学生39名、教職員42名



SciREXサマーキャンプ2016実施報告

三日間の流れ

今年度のサマーキャンプでは、1日目の講義および特別講演、1, 2日目の視察、3日目の発表の流れにおいて、あるテーマに対する知識を各自が、グループ内での対話の中で、さらに現場でのインタビューなどによって、理解を深めたうえで、チームでアイデアが創出できるように工夫した。

講義および特別講演

・講義 (プログラム順)

九州大学 永田晃也教授「地域イノベーション政策への接近」

京都大学 川上浩司教授「自治体の持つ健康情報資料の政策等への利活用について」

・特別講演

アイリスオーヤマ代表取締役社長 大山健太郎氏 (紹介 一橋大学 米倉誠一郎教授)



視察

・野蒜地域バスツアー(1日目)

松島町はその地形ゆえ、じつは津波による被害は他の地域に比べると小さかった。しかし、松島町からバスで20分ぐらいの距離にある東松島市の野蒜地域は壊滅的な被害を受けた。市の語り部の方にガイドをお願いし、参加者は、とくに大きな被害を受けた場所を見ながら、被害についての詳しいお話を伺った。

・グループ視察(2日目)

7つのグループに分かれ、6箇所の視察先にむかった。(グループ名と視察先は、次頁の通り)

SciREXサマーキャンプ2016実施報告

三日間の流れ

今年度のサマーキャンプでは、1日目の講義および特別講演、1, 2日目の視察、3日目の発表の流れにおいて、あるテーマに対する知識を各自が、グループ内での対話の中で、さらに現場でのインタビューなどによって、理解を深めたうえで、チームでアイデアが創出できるように工夫した。

グループ視察(2日目)

7つのグループに分かれ、6箇所の視察先にむかった。

- ・ 農業G サンフレッシュ松島(トマト農家)
- ・ 医療G1, 2 東北大学メディカルメガバンク機構
- ・ 産学連携G 株式会社TESS(足こぎ車椅子の大学発ベンチャー)
- ・ 中小企業G ヤマコ武田商店(マグロの冷凍技術)
- ・ 地域スポーツG 株式会社楽天野球団
- ・ 観光G(留学生) 松島湾エリア

発表

二日目に中間発表を行い、教員や政策担当者からのフィードバックを踏まえて、三日目には、松島町観光文化会館にて、最終発表会を行なった。7チームの学生がそれぞれの課題について発表をおこなった。今回は得票数で優秀なチームを選ぶのではなく、各拠点の教員や政策担当者等が専門家の立場から、若手教員が考えたさまざまな視点で評価してもらった。



2016 年度 SciREX セミナー開催一覧

政策研究大学院大学
 科学技術イノベーション政策研究センター

開催	開催日	テーマ	講師	所属・役職
シリーズ 第1回	2016 年 7 月 14 日	『グローバリズムの行方～『価値』の変容を考える～』	藤山 知彦	科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー
シリーズ 第2回	2016 年 9 月 28 日	『21 世紀、世界の人口構造変化と日本』	金子隆一	国立社会保障・人口問題研究所副所長
第 17 回	2016 年 10 月 3 日	『ノーベル賞カウントダウン！！～データで探るノーベル受賞者のキャリアと成果～』	原泰史	政策研究大学院大学 SciREX センター専門職
			赤池 伸一	SciREX センター・政策リエゾン／科学技術・学術政策研究所科学技術予測センター長
第 18 回	2016 年 10 月 25 日	『イノベーションとレギュレーションの共進化』	加納 信吾	東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻准教授
第 19 回	2016 年 11 月 29 日	『日本の研究力強化と研究費制度改革』	佐藤 靖	科学技術振興機構研究開発戦略センター・フェロー
シリーズ 第3回	2016 年 12 月 8 日	『労働市場のパラダイムシフト —2030 年の Work Model—』	中村 天江	リクルートワークス研究所労働政策センター長